1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
3、文章は三行めから一字さげて書きはじめましょう。
4、文章の構想をしっかり立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字さげて書きはじめ、一つの段落がおわったら行を変えましょう。

（　月　日　曜日）

No. 1

屋久島レクレーションの森

安房中学校三年　松田　風羽馬

屋久島は世界自然遺産に登録された島の一つです。屋久島は、さまざまな動植物が生息しており、島全体が自然で満ち溢れています。また、九州最高峰の宮之浦岳を中心とした、チメートル級の山々があります。

こうした、屋久島の自然のすごさをふまえて僕は屋久島といえば、白谷雲水峡が思い浮かびます。先日、白谷雲水峡へ行ったとき、そこの自然が創り出す幻想的な世界に圧倒されました。それから、僕は白谷雲水峡が屋久島の自然の中心と思うようになりました。

自谷雲水峡は、白谷川という川の上流にある面積4223・73ヘクタールの自然休養林です。照葉樹林からヤクスギ林への移行帯に位置します。そこでは、照葉樹林帯を代表するイスノキ、ウラジロガシ、タブノキなどの大木をみることができます。また、ヤクスギ林帯を代表するスギ、ツガ、モミなどもみ

中学校

（不許複製）

5、読みやすいように、、と。とをしっかりつけましょう。、と。とは、それぞれ一字にかぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
6、人が話したところは、「　」のなかに入れましょう。「　」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れましょう。
7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」とを、しっかり使いわけましょう。
8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことばをおぎない、むだなことばをけずりましょう。

鹿児島県中学校教育研究会国語部会選定

20×20

No. 2

1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
3、文章は三行めから一字さげて書きはじめましょう。
4、文章の構想をしっかり立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字さげて書きはじめ、一つの段落がおわったら行を変えましょう。

（　月　日　曜日）

ることができます。

僕がこの白谷雲水峡が屋久島の中心だと思った理由があります。

それは、アニメ映画のモデルとなった苔むす森です。石や木など、すべてのものが緑色の苔で覆われた幻想的な世界が広がっています。

この森は、一日本の貴重なコケの森」に制定されており、日本有数の苔のスポットとされています。

もう一つ理由があります。それは、太鼓岩のよかうの景色です。晴れているとき、九州最高峰の宮之浦岳がみえてくださいました。僕が登ったときは天気もいい眺めでした。

登山の疲れを吹っ飛ばしてくれました。

とができました。太鼓岩の上からみる景色はかよかったので

屋久島の奥岳を一望することができました。

僕は、実際にみた二つの景色から屋久島の自然のすごさを改めて強く感じました。

島の自然のすごさを改めて強く感じました。

自然の感じ方は人それぞれなので、自分自身の自然とのふれあい方、楽しみ方、見方が大

（不許複製）

5、読みやすいように、、と。とをしっかりつけましょう。、と。とは、それぞれ一字にかぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
6、人が話したところは、「　」のなかに入れましょう。「　」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れましょう。
7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」を、しっかり使いわけましょう。
8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことばをおぎない、むだなことばをけずりましょう。

鹿児島県中学校教育研究会国語部会選定

20×20

No.

切だと思いました。

僕は、屋久島の自然の中心といえば、白谷雲水峡だと思っていました。屋久島の他の自然ともふれあってみたいと思いました。「屋久島レクレーションの森」は、白谷雲水峡だけでなくその他の屋久島に満ち溢れているすきまならほどの自然ではないのかと考えました。

中学校

20×20

1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
3、文章は三行めから一字さげて書きはじめましょう。
4、文章の構想をしっかり立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字さげて書きはじめ、一つの段落がおわったら行を変えましょう。

（　月　日　曜日）

5、読みやすいように、、と。とをしっかりつけましょう。、と。とは、それぞれ一字にかぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
6、人が話したところは、「」のなかに入れましょう。「」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れましょう。
7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」を、しっかり使いわけましょう。
8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことばをおぎない、むだなことばをけずりましょう。

（不許複製）

鹿児島県中学校教育研究会国語部会選定